

ボーリング柱状図

調 査 名

ボーリングNO.

事業・工事名

シートNO.

ボーリング名	B-1		調査位置												北緯	37° 06' 47.4300"								
発注機関	栃木県大田原土木事務所道路部道路保全課										調査期間	2008-09-01 ～ 2008-09-02										東経	140° 00' 33.7100"	
調査業者名			主任技師												現場代理人			コ鑑定者			ボーリング責任者			
孔口標高	953.70 m	角			方向			地盤勾配			使用機種											ハンマー落下用具		
総掘進長	10.28 m	度			方向			地盤勾配			エンジン											ポンプ		

標尺	層高	厚	深	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分 孔内水位(m) 測定月日	標準貫入試験				原位置試験		試料採取		室内試験	掘進月日		
											深度	10cmごとの打撃回数			打撃回数 ／貫入量	深度	試験名 および結果	深度			試料 番号	採取 方法
												0	10	20								
(m)	(m)	(m)	(m)								(m)											
1					盛土 (BS)				上部50cmまで植物茎・根を多く混入するシルト混り砂礫から成り、最大φ200mm程度の玉石を含む。 以下、ローム材を主体にシルト・小礫が不均質に混合される粘性土盛土による。 所々に、ロームの塊状分布を交える他、黒ボク土境をも集中的に混在する箇所あり。		1.15 1 / 30		1 / 30									
2					茶褐			中位	2.9m付近からφ20mm内外の内礫を所々に点在し、比較的硬く締まった状態を呈する。		1.45 2 / 30				1							
3											2.15 1 / 30	1 / 30	2 / 30	4 / 30	4							
4	949.70	4.00	4.00		ローム (Lm)	茶褐			含水・粘性中位でやや硬い。 φ15mm以下の円・垂円礫を少量点注。		3.15 1 / 30	1 / 30	2 / 30	4 / 30	4							
5	949.30	0.40	4.40		礫混り砂質粘土 (CHS-G)			非常に硬い	火山灰を強く感じる地層。 含水・粘性やや上位で硬い土性を呈する。 φ5～15mmの火山礫を全体に混入し、稀にφ40～50mm程度の安山岩礫も含む。		4.15 2 / 30	2 / 30	2 / 30	6 / 30	6							
6								硬い	7.5m以深、砂分多くなり、幾分か粘性の低下が見られる。		4.45 2 / 30											
7					乳茶灰						5.15 4 / 30	5 / 30	7 / 30	16 / 30	16							
8	946.00	3.30	7.70		砂礫 (GS)	暗茶灰		非常に密な	φ10～30mmの火山礫を主体として、所々にφ80～120mm内外の玉石を混在する。難読された最大コア長はL=10cm弱(推定礫φ200～250mm前後)である。 マトリックスは、やや多くの細粒土分と中～粗砂分から成り、非常に密に充填する。孔隙は安定しており、自立性に優れる。		6.15 4 / 30	5 / 30	5 / 30	14 / 30	14							
9											7.15 7 / 30	5 / 30	3 / 30	15 / 30	15							
10	943.42	2.58	10.28								7.45 8.15 8.43			17 / 8	50 / 28	>50				09/01		
											9.15 9.30	31 / 5	19 / 5	50 / 15	>50							
											10.15 10.28	26 / 3	24 / 3	50 / 13	>50					09/02		